

防止剤なしで凍結抑制効果



前田道路のフリーズオフコート

枝下大橋舗装現場で試験施工

前田道路は4日、愛知県豊田市の猿投グリーンロード枝下大橋の舗装修繕工事現場で、塩化カルシウムなどを散布しなくても凍結抑制効果を発揮する表面処理工法「フリーズオフコート」を試験施工した。

交通規制した片側1車線内で、内外破線から5メートル離し、長さ75メートル×幅60メートル×2レーン(約90平方メートル)を施工した。路面清掃から工区養生、水溶液散布、樹脂モルタル塗布、硬化までの養生の手順で実施した。樹脂モルタル塗布は、電動台車でけん引する塗布用のボックスに材料

を入れて行った二写真。

同工法では、舗装表面の直上に凍結抑制材(非塩化物系)と樹脂モルタルからなる層を構築する。モルタル表面に凍結抑制材がしみ出ることによって凝固点降下作用により氷着が抑えられ、タイヤ走行の衝撃で圧雪や氷膜が除去されやすくなる。効果は2シーズンにわたって持続する。重ねて表面処理すれば2シーズン目以降も効果を維持できる。

同工法は、凍結しやすい橋梁部、車両の減速・停止が求められるカーブや下り坂、路面状況の変化が著しいトンネル出入り口付近や消融雪施設の背後部などでの適用を推奨している。

金属腐食を引き起こさない非塩化物系の材料を使ったため、道路付属物への塩害を抑制できるという。同社担当者は「フリーズオフコートを施しておけば、雪が降るか不確かな時でも凍結防止剤を事前に散布するか迷う必要がなくなる」と、そのメリットを強調する。

